

## 馬の背

「蛾ヶ岳」という山に登った。蛾ヶ岳と書いて「ひるがたけ」という不思議な読み方を  
する山で一二七九メートル、山梨県の比較的南のほうに位置し、富士山が間近に見  
える山だ。もう何年も山らしい山から遠ざかってしまっている私でもなんとか登れると  
ころをと、学生時代の仲間(少し年下の後輩たちだ)が計画してくれた。

四尾連湖(しびれこ)という湖の近くに車を止め、そこから上りは二時間弱、五人だ  
ったが、私に合わせてゆっくり登ってくれた。山頂付近は、標高差百メートルを一気に  
登る急登があり、かなりしんどかったが何とか無事山頂に立つことができた。天候に  
恵まれて、山頂では、雲が切れた富士山を拝むことができた。富士山はいつでもここら  
見てもいいものだが、山頂から間近に見るその姿は、疲れを忘れさせるものだった。

さらに、この山歩きの中で印象的だったのもの、それは、新緑の山道と「馬の背」であ  
った。馬の背とは山の尾根線によくみられる、右も左も下り斜面あるいは崖状態にな  
った細い道のことで、地名というより、馬の背中のような地形を表す言葉である。標  
高の高い山頂付近であれば、大変危険なコースとなる。北アルプス奥穂高岳の馬の背  
は難所として特に有名である。

今回のコースは、しばらく登るとすぐに尾根道に出る。あとはしばらく尾根道を歩  
く。広葉樹の樹林帯の中である。五月、新緑の尾根道は、進んでいくと差し込む光や  
木々の明るさ、緑の色が次々と変わっていった。その移り変わりが私たちを楽しませて  
くれた。そして、何回も目の前に現れたのが馬の背である。

それまで覆いかぶさるように見えていた木々が、そこでは左右の斜面に分かれ、景色  
が一変する。歩く人に道を開けてくれているようである。だが、見上げてばかりはいら  
れない。道はすれ違ふことが難しいくらいの幅だ。左右が急斜面の馬の背では、特に足  
元に気を付けて歩かなくてはいけない。

特に私には「前歴」がある。一回目は学生時代に縦走をしていて斜面を転げ落ちそ  
うになった。二回目はもう少し後だが、斜面を一回転したことがあった。幸いどちらも  
ケガをするほどのことはなかったのだが要注意である。

下山は、上りと同じルートを下ってきた。下りもまたそれなりに大変であったが、無  
事おりてくることができた。心地の良い疲れが残った。

そこから、その日に泊まる山の温泉宿に車で向かった。